

2011年9月期 決算説明資料

2011年11月

フィンテック グローバル株式会社

(東証マザーズ:8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

2011年9月期 通期業績の総括

収益モデルの転換について

当社グループは、近年、収益モデルの抜本的な転換を断行しております。事業の主軸を、アセットファイナンスに係るビジネスから**企業投資**をメインとしたビジネスへと変化させております。

■ 従来の事業の主軸

アセットファイナンス(各種証券化商品等)の組成アレンジメント及びこれに対するプリンシパルファイナンス(投融資)

アレンジ手数料、ローン金利収入が収益源

(特徴)一案件の投融資額が大きく、また、マーケット変動を瞬時に受ける。一方、金利収入・アレンジメント収入共に即効性がある。



■ 現在の事業の主軸

中堅企業への経営参画・企業再生・ベンチャー育成・資金調達アレンジ等の業務を提供する投資銀行事業・プリンシパルファイナンス事業を通じて企業投資を加速。これを相互補完しつつ投資運用受託(アセットマネジメント事業)の拡充を図り、投資家市場におけるプレゼンスを高めております。

FA報酬・経営指導報酬・運用受託報酬等のフィー収入

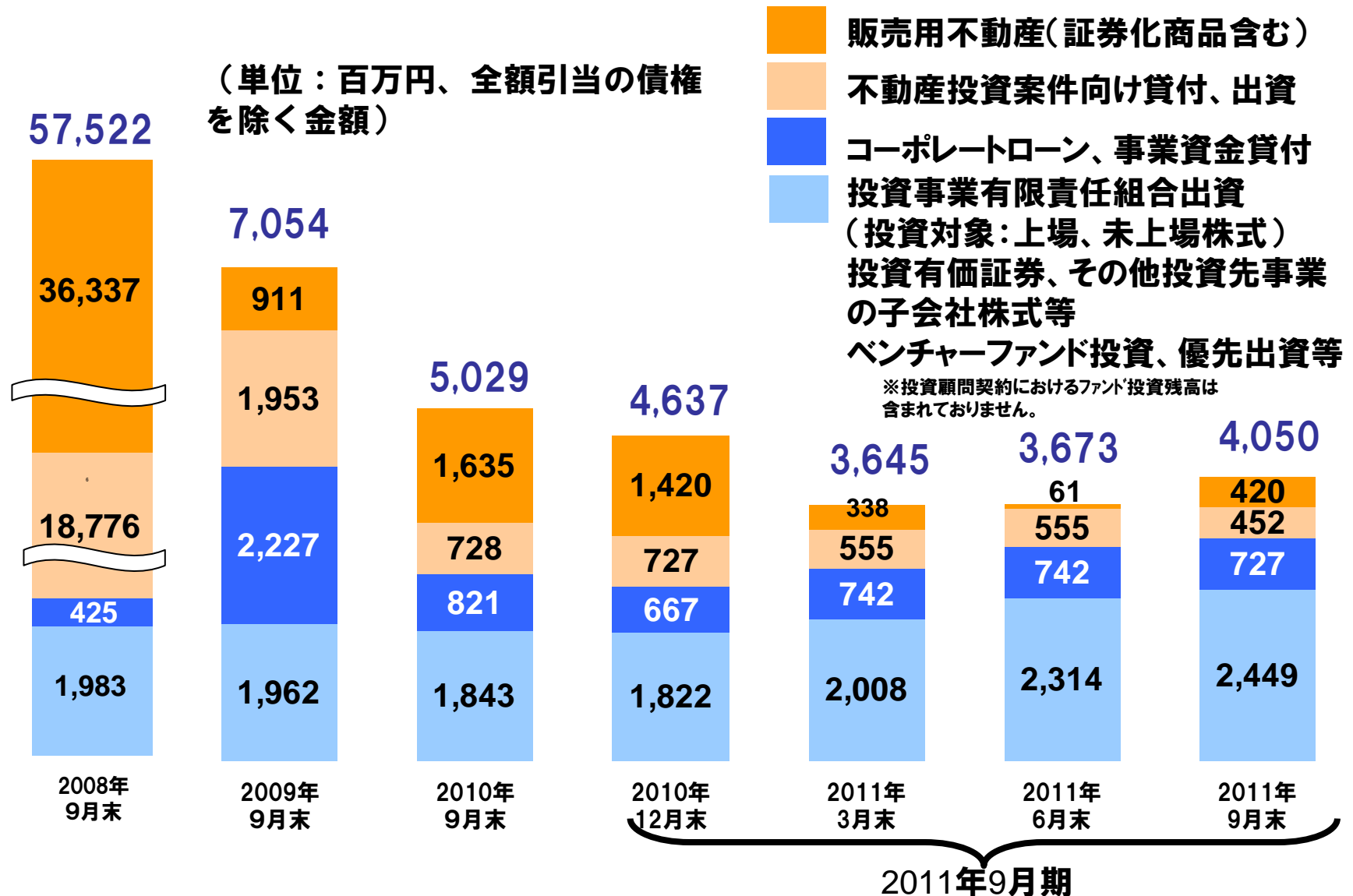
企業価値向上後の売却(エグジット)によるキャピタルゲイン

子会社化や持分法適用による収益取込の場合も有り

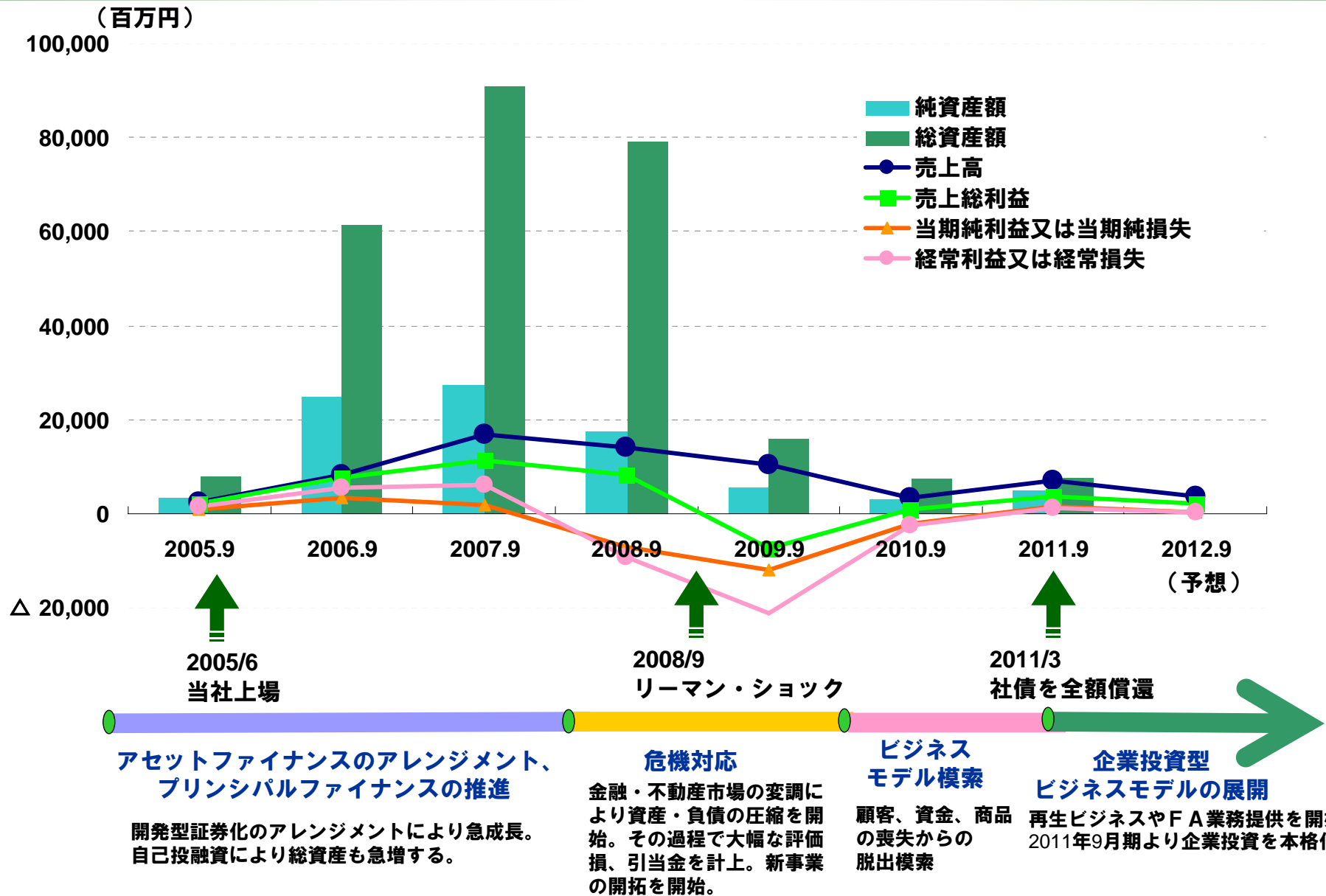
(特徴)少額の分散投資が可能で、マーケットリスクへの対応手段に多様性がある。一方、投資回収には時間がかかり、かつ各種フィー収入のアップフロント(一括)取得は難しい。また、企業運営には手間もかかり、リスク対応が広範囲に及ぶ。

プリンシパルファイナンスのポートフォリオの推移

不動産アセット関連が減少する一方、企業向け投資が増加



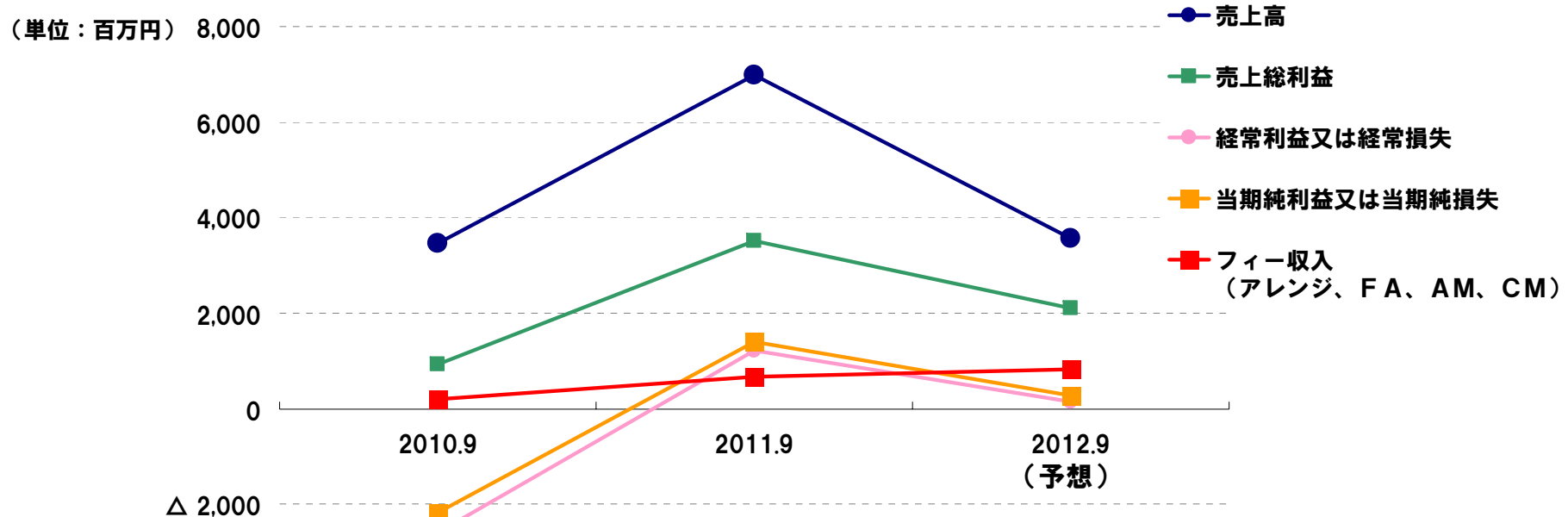
連結業績とビジネスの変遷



連結業績とビジネスの変遷(2010年からの詳細)

	2010.9	2011.9	2012.9
売上高	3,465	6,988	3,560
売上総利益	935	3,509	2,110
経常利益又は経常損失(△)	△ 2,604	1,220	150
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 2,172	1,404	280
フィー収入 (アレンジ、FA、AM、CM)	207	663	820

(単位：百万円)
(2012.9は予想値)



フィー収入が落ち込み、
残戸投資等のビジネス
が中心

FA、アレンジ収入
増、企業向けサービ
スが伸び始める。

前期に引続き顧客層の拡大
及び投資家市場の運用受託残高の積上げ推進
但し、大型のエグジットは予想値に見込まず

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

FGI グループ投資先、顧客企業のご紹介

フィンテックグローバルは、潜在性・将来性豊かな上場／未上場企業・事業の成長を捉えて、プリンシパル投資を積極的に展開しております。また、フィナンシャル・アドバイザーやファイナンス・アレンジメントなどの金融サービスの子会社を通じて提供しております。

フィンテックグローバルの代表的な投資先企業、顧客企業を紹介いたします。(敬称略、括弧内は投資又は業務提供開始時期)

FGI 投資先、顧客企業

R&Y株式会社



健康食品・
化粧品販売

(2011年4月～)

「お客様が本物を実感できるサプリ・化粧品」を目指す1999年創業の健康食品・化粧品企画販売会社です。市場シェア63%を占めるプラセンタ・サプリ「プラセンタ100」は大手TVショッピングで15期連続ベストセラーとなっています。

フィンテックグローバルは、創業者の事業承継スポンサーとして一部出資しております。
また、フィンテックアセットマネジメントは主力商品の国内拡販、アジアを中心とした海外マーケット展開の支援、オペレーション改善の指導などを行い、企業価値の向上を図っております。

株式会社陽光都市開発



不動産販売事業
不動産管理事業

(2011年4月～)

株式会社陽光都市開発は創業以来、投資用マンションを開発・提供することで、お客様の資産形成ニーズに応えてきました。現在は不動産販売事業から不動産管理事業にシフトして、事業の再構築を進めています。

フィンテックグローバルは、子会社を通じて同社の事業再構築のためのフィナンシャル・アドバイザー業務を提供しております。
また、同社に投資する投資事業有限責任組合に有限責任組合員として出資しております。

渋崎建設株式会社



総合建設業
一級建築士
事務所

(2010年11月～)

お客様の「豊かで楽しい人生」を実現したい。長野県の諏訪湖畔にあります創業50年の歴史を持つ地域に根ざした土木・建築会社です。

個人のお客様には「豊かで楽しい人生」の実現を、法人のお客様には「事業の成功」を応援する建設サービス業を目指しています。
土木部門は公共工事の他、土壌汚染の調査・改良、建築部門は事業用新築工事の他、住宅・別荘の新築、スタイルアップリフォーム、土地活用など新規事業にも取り組んでいます。

フィンテックグローバルは、2010年にスポンサー契約を締結し、ファイナンス・財務アドバイスを通じて、経営支援を行っております。

株式会社サンシティ



分譲マンション事業
不動産賃貸事業

(2010年5月～)

株式会社サンシティは、主に東北6県の地方衛星都市において分譲マンションの開発及び販売事業を展開しております。

(2011年9月に同社は民事再生手続の申立を行っております)

フィンテックグローバルは、同社の民事再生申立後も、同社の事業再建を支援して参ります。

FGIグループ投資先、顧客企業のご紹介

FGI 投資先、顧客企業

株式会社新栄不動産開発



株式会社 新栄不動産開発

不動産売買業、
不動産開発代行業、
不動産売買仲介業

(2009年8月～)

株式会社新栄不動産開発は、不動産に関する有効利用、開発、投資、運用、M&A、証券化等を事業領域とし、不動産のプロとしての高い専門性と豊富な経験・ノウハウを駆使し、顧客及び社会に対して、最適なソリューションを提供してまいります。

フィンテックグローバルは、2009年に100%出資子会社として経営支援しており、軌道に乗せたところで経営陣への株式譲渡(MBO)をしております。現在も一部出資を継続するとともに役員を派遣し、営業、管理両面で提携関係を継続しております。

株式会社ロジコム



サブリース事業
定期借地権事業
建築請負事業
短期賃貸型
住宅事業

(2009年5月より
業務提携)

株式会社ロジコムはサブリースを軸とした「事業用」不動産賃貸事業の総合サービス企業です。東京都西部から埼玉県南部を中心に、安心と信頼のブランド、ロジコムならではの事業を展開しています。創業以来、200余件の開発実績を積み重ね、地域のリーディング企業として、確固たる地位を築いています。

フィンテックグローバルは、2009年に同社と不動産事業等に係る業務提携をするとともに、同社の増資の際に投資事業有限責任組合を通じて有限責任組合員として一部出資しております。

株式会社ベルス



福利厚生
トータルサービス
(2008年11月～)

株式会社ベルスは1991年の創業時より日本IBMの借り上げ社宅業務を代行している福利厚生サービス会社です。

住宅関係(購入・売却、建築、リフォーム、社宅、賃貸借)と生活支援(物販、ゴールドカード)のサービスを提供しており、現在700万人の企業従業員向けにサービスを展開中です。

フィンテックグローバルは、2008年に同社の普通株式の94%を取得し、連結子会社としております。

Crane Reinsurance Limited (英国領バミューダ)



再保険引受
(2006年3月～)

Crane Reinsurance Limitedは、2006年バミューダでライセンスを取得して以降、火災保険、家財保障等の良質な保険リスクの再保険の引受をしております。

フィンテックグローバルは、設立当初より子会社を通じてCraneに投資をしており、現在は当社の直接の100%子会社となっております。

FGIグループ投資先、顧客企業のご紹介

FGICP 投資先企業

FGIキャピタル・パートナーズは、日本を含むアジアを拠点とするテクノロジー分野を主軸としたベンチャー企業投資を行うファンドの運用を通じ、投資家・投資先の双方に価値を生み出すことの出来る投資を行います。代表的な投資先を紹介いたします。（敬称略、括弧内は投資又は業務提供開始時期）

株式会社MERSTech



電力エネルギーの有効利用と省エネ貢献する“MERS技術”をベースとした製品の開発、普及

（2009年～）

株式会社MERSTechは、東京工業大学で発明されたパワーエレクトロニクス分野の画期的回路、MERS技術を商用化するために設立されたテクノロジーベンチャーです。MERS回路の応用分野は、発電、送電、産業用システム、家電、モバイル等幅広い応用分野を持ち、国内のみならず米国、中国、インド等グローバルにビジネス展開を図っています。

FGIキャピタル・パートナーズは投資家の皆様が出資するファンドの運用を委託されており、その運用先として同社に投資を行い、企業価値向上のためのアドバイスをしております。また、フィンテックグローバルは2010年より同社への投資を開始しております。

MDT INNOVATIONS Sdn Bhd（マレーシア）



RFID、クラウドやモバイル機器を用いた、先進認証技術、安全技術の研究開発及びシステムインテグレーション

（2009年～）

MDTiは、マレーシア登記のRFID（SUICAやフェリカなどに使われている無線タグ）のソリューション・プロバイダです。RFIDタグおよびリーダーの世界トップ5のメーカーであり、中国、インドネシア、オーストラリア等アジアを中心にグローバルに事業展開をしています。顧客には大手流通企業、食品メーカー、各国政府を数多く抱え昨今のNFC（Near Field Communicator:スマートフォンに搭載されはじめている、お財布携帯機能等を提供する近接無線通信システム）ブームの到来と相まって、事業が急速に拡大しています。

FGIキャピタル・パートナーズは投資家の皆様が出資するファンドの運用を委託されており、その運用先として同社に投資を行い、企業価値向上のためのアドバイスをしております。また、フィンテックグローバルは2011年に新製品の共同開発のための協力金の一部を提供しております。

FGI グループ投資先、顧客企業のご紹介

FGF 投資先企業

FinTech Gimv Fund (FGF) は、フィンテックグローバル(株)、ベルギーのプライベートエクイティ投資会社であるGIMV、(株)日本政策投資銀行をリードインベスターとして設立されたベンチャーファンドであります。2007年12月の設立以降、日米欧の情報通信、新素材およびライフサイエンス等の各セクターの高い成長が見込める企業に対して、投資を継続してきております。FGFの代表的な投資先をご紹介します。(敬称略、括弧内は投資開始時期)

Oree (イスラエル)



LEDモジュール
の開発・販売
(2011年3月～)

イスラエルの平面型LEDモジュール企業で、独自の導光板と光素子実装技術で、薄く均一に発行するLEDモジュールを開発・販売しています。この技術を用いて、ファブレスでバックライト及び照明用に販売しています。

株式会社モフィリア(日本、東京)

mofiria

指静脈認証
開発・製造・販売

(2011年3月～)

「安心・安全・快適な社会を実現する」を目標として、小型・高速かつ高精度で快適な操作性を実現した指静脈認証機器の開発・製造・販売を行っています。独自の指静脈認証技術「mofiria」を採用したベストソリューションをグローバルに提供しています。

株式会社ウィジー (日本、東京)



ソーシャルメディア
関連サービス提供
ソーシャルメディア
関連コンサルティング
ソーシャルメディア
関連システム開発
大規模データ処理
システム開発
(2010年6月～)

株式会社ウィジーは、Webマーケティングでは必須となりつつある各種ソーシャルメディアを利用した業績UPのために、お客様の状況に応じて、最適なソーシャルメディアマーケティングの戦略立案からシステム開発・運用までをEnd to Endで提案しています。

SFJファーマシューティカルズ(日本、大阪)



医薬品臨床開発の
プロジェクトファイナンス
(2010年2月～)

日本での医薬品の臨床開発と承認取得のために新しいビジネスモデルを展開するスペシャリティ医薬品企業です。日本のパートナー製薬企業に革新的な資金調達アプローチを提供します。

これまでに、エーザイ株式会社を含む複数の大手製薬企業と共同開発契約を提携しています。

FGIグループ投資先、顧客企業のご紹介

FGF 投資先企業

アイペリアン(米国カリフォルニア州)



iPS細胞に基づく
中枢神経疾患治療薬
の研究開発

(2009年7月～)

人工多能性幹細胞(iPS)技術を基盤とする創薬技術を用いて、アルツハイマー病等の神経変性疾患の治療薬を開発する企業です。

世界で初めてiPS細胞の樹立を報告した、京都大学の山中伸弥教授が同社の科学諮問委員会委員に就任しています。

インテリカイン(米国カリフォルニア州)

intellikine

癌・炎症性疾患
治療薬の研究開発

(2009年6月～)

カリフォルニア大学サンフランシスコ校細胞分子薬理学分門長のケイボン・ショカット教授の研究成果に基づいて設立された企業で、PI3キナーゼ・mTORパスウェイをターゲットにした癌・炎症性疾患治療薬の研究開発に特化した企業です。

現在臨床試験実施中の3つのプログラムの内、INK1197についてインフィニティーファーマシューティカルズ社と448万ドルの全世界における共同開発契約を締結しています。

株式会社アール・アイ (日本、東京)



コンピュータ用ソフトウェアの開発・販売

(2009年3月～)

2005年創業の、稀少な国産ユーティリティソフトウェアメーカーです。法人向けの販売チャネル開拓に成功し、導入700社・20000ライセンスを販売しています。

2011年9月発売のスタンドアロンタイプのソフトウェアで、コンシューマ市場にもチャレンジしています。

バックアップソフトウェアの分野で高い製品認知度があります。

ASOCS (イスラエル)



無線機器向け半導体の開発・販売

(2008年9月～)

イスラエルのファブレス無線向けLSI設計企業です。小面積、低消費電力に抑えつつ、まだ標準が固まっていないプロトコルの変更や、複数のプロトコル切り替えを可能にするリコンフィギュラブルなLSIであることを特徴としています。

トリウス・セラピューティクス(米国カリフォルニア州)



感染症治療薬の研究開発

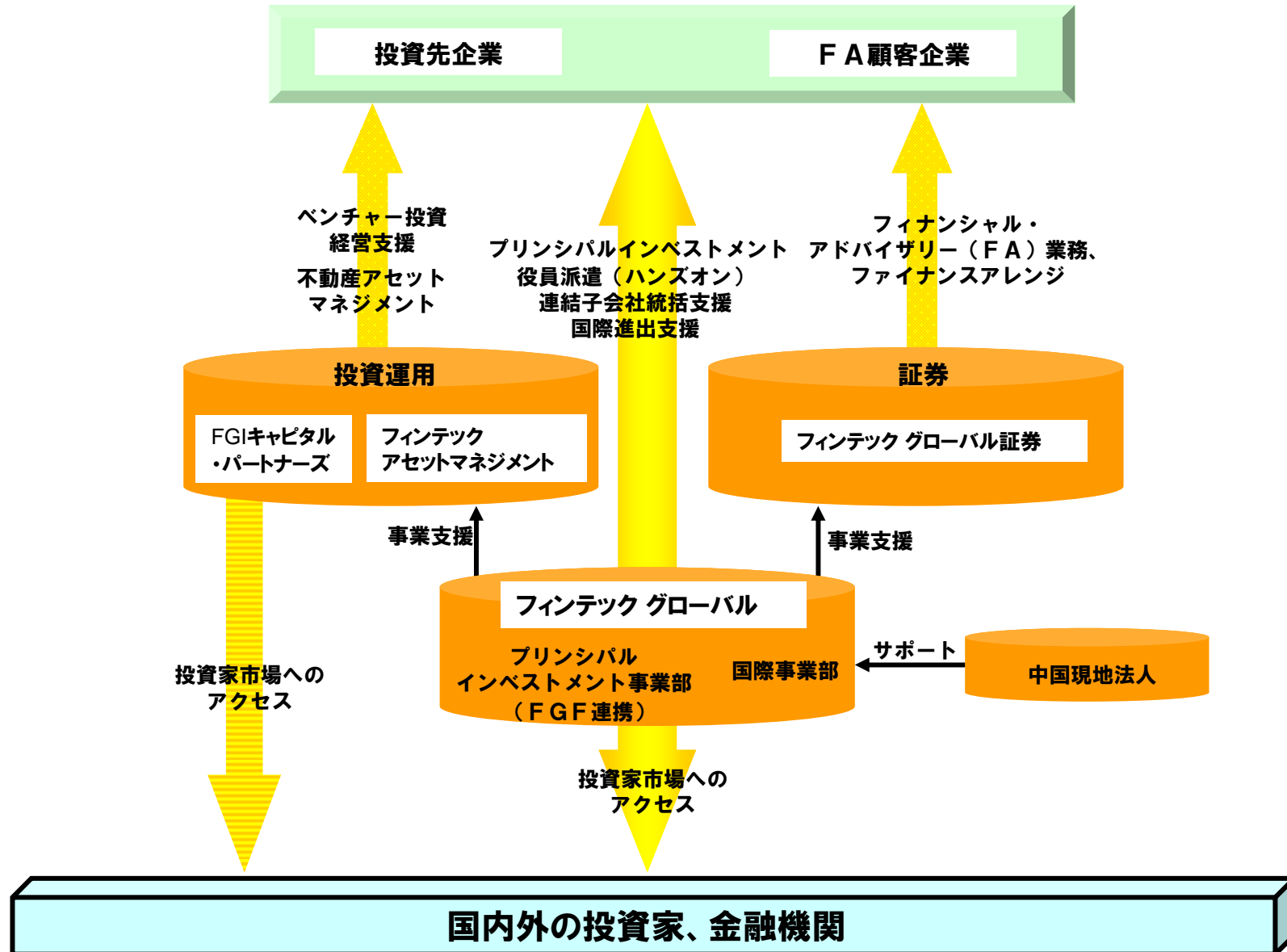
(2008年3月～)

重症感染症の治療薬の研究開発に特化した企業です。現在リードプログラムである、メシチリン耐性黄色ブドウ球菌に起因する感染症に対する治療薬、Tedizolidの第III相臨床試験を行っております。

トリウス社は2010年8月に米国NASDAQに上場しております。

また、日本を含むアジアパシフィック、並びにエマージングマーケット地域において大手製薬企業であるバイエル社と提携を行っています。

2011年9月期 FGIグループ事業展開 鳥瞰図



2011年9月期 連結業績ハイライト

(単位：百万円)	2010年9月期 実績	当初 (2010/11/12) 発表予想	前回 (2011/3/11) 発表予想	2011年9月期 実績	前回発表 予想比
売上高	3,465	2,900	5,620	6,988	+1,368
売上総利益	935	—	—	3,509	—
営業利益	△ 2,506	150	1,420	1,276	△143
経常利益	△ 2,604	130	1,370	1,220	△149
当期純利益	△ 2,172	110	1,260	1,404	+144

■ 全般的な営業状況

- ビジネスの主軸は、アセットファイナンスから**企業投資**へ
- 投資前の財務アドバイザー業務や事業資金のファイナンスアレンジメントも増加 手数料収入増加
- 企業投資後は、経営指導による経営管理報酬及び企業価値向上後の持分売却益が収入源
⇒当期はエグジットがなく、投資回収には至らなかったが、価値向上によりエグジット検討先もあり
- 投資運用も、FGIキャピタル・パートナーズ(株)の運用戦略が加わり、投資家へのアプローチが多彩になる
- プリンシパルファイナンスの債権回収時に取得した不動産売却(2Q)により、売上、利益とも大幅増加

■ 前回発表予想値との差異要因

- 売上高増加要因
 - ①当初不動産所有のSPCからの金利収入として見込んでいた売上が、SPC連結化で物件売却収入を売上計上
 - ②連結している投資先事業(Crane)の保険料収入が増加。同時に支払準備金も増加
⇒①、②ともに営業利益への影響は軽微
- FGIキャピタル・パートナーズ(株)の子会社化による連結業績への寄与
- 景気動向を鑑み、一部債権の貸倒引当金を増額したことで、営業利益、経常利益は減少
- 当初検討の本社移転について賃料削減見込が付き実行しなかったため、これにかかる特別損失がなかったこと、及び貸倒引当金戻入益の計上により当期純利益は増加

2011年9月期 財務活動、内部管理

■ CBを全額買入消却

- ✓ 2011年3月にCB（新株予約権付社債）の未償還額（額面総額12億円）の全額を買入消却
本社債を担保にした投資家からの借入金8.9億円も返済
- ✓ 有利子負債（借入金+CB）は、前期末2,417百万円から当期末181百万円まで減少

■ 内部管理態勢の強化

- ✓ 当社及び金融子会社各社の業容拡大に伴う内部管理態勢の強化
 - ・ 社内規程、職務権限等の見直し
 - ・ 業務プロセス、手順の明確化を通じた法令遵守態勢の見直し

■ 経営効率化への取組み継続

- ✓ 子会社の減少、業務効率化を伴う人員配置の見直しによる人件費等の圧縮、一般経費の徹底した見直しにより、貸倒損失等を除く販管費は前期比486百万円減

セグメント別業績

	報告セグメント					(単位:千円)		
	投資銀行事業	アセット マネジメント ・アドバイザー 事業	公共財 関連事業	プリンシパル ファイナンス 事業	その他 投資先事業	合計	調整額	連結損益計算書 計上額
外部顧客への売上高	415,673	446,409	202,108	3,996,724	1,927,281	6,988,197	—	6,988,197
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	32,944	8,415	6,214	9,085	3,600	60,258	△ 60,258	—
売上高	448,617	454,824	208,323	4,005,809	1,930,881	7,048,456	△ 60,258	6,988,197
営業費用 1	357,208	507,095	250,852	2,140,412	1,898,955	5,154,523	556,984	5,711,508
セグメント利益	91,409	△ 52,270	△ 42,528	1,865,397	31,926	1,893,932	△ 617,243	1,276,688

1 コア3事業の営業費用には、各子会社から事業持株会社である当社へ支払われる経営指導料（投資銀行事業180,000千円、アセットマネジメント・アドバイザー事業184,800千円、公共財関連事業18,000千円）が含まれております。また調整額556,984千円は、セグメント間取引消去447,811千円、報告セグメントに配分していない全社費用（主に当社F G Iの一般管理費）1,004,796千円が含まれております。

2 担保不動産の売上3,105百万円、営業費用1,236百万円が含まれております。

セグメント別営業概況 — 投資銀行事業 —

事業推進会社—フィンテックグローバル証券株（FGS）

FGSは当社グループの投資銀行部門を担い、顧客ニーズに対応することに特化したブティック型インベストメントバンクです。大型化した金融機関とは一線を画し、徹底して顧客ニーズに対応し、金融商品の組成(アレンジメント)、ソリューション提供(フィナンシャルアドバイザー〔FA〕等)を行います。

FGSで見出された投融資機会に対しFGIグループがファイナンスを実行するとともに、投資運用会社のFAM、FGICPに対してもAM業務などの収益機会が提供されることで、グループ全体の収益拡大に貢献しております。

FGSの売上はフィー収入であることから、売上高総利益率は99.3%となっております。

事業レビュー

- ✓ 既存のフィナンシャル・アドバイザー(FA)先の深耕、および新規FA先の獲得に注力
→FA顧客にファイナンスアレンジメントを提供
- ✓ 上場企業の顧客層が拡大傾向

FGS単体売上構成、営業利益

	金額(百万円)	業務内容
FA売上	86	企業財務・資本政策等に係るアドバイザー業務
アレンジメント売上	175	【企業成長資金アレンジ】 不動産開発資金アレンジ、株式取得スキームアレンジ 【企業再生アレンジ】 債権買取プロジェクトアレンジ、顧客資産流動化アレンジ 【私募取扱業務】 ファンドの私募取扱
その他売上	186	その他業務、FGIの貸金業代理店業務
売上高合計	448	
営業利益	93	

セグメント別営業概況 —アセットマネジメント・アドバイザー事業(1)—

事業推進会社—フィンテックアセットマネジメント(株) (FAM)

FAMは、アセットマネジメント業務を中心とした不動産関連業務及び経営支援業務を行っております。不動産関連業務では、物件ソーシングからファイナンスアレンジ、ファンド組成、アセットマネジメント(AM)など不動産における様々なソリューションを提供しており、当社グループの国内外のネットワークで見出される最適な不動産投資戦略を投資家に提案しております。また、経営支援業務では、財務改善や組織再編の相談助言、スポンサー業務、経営コンサルなどを展開しております。

FAMの売上は概ねフィー収入であることから、売上高総利益率は86.5%となっております。

事業レビュー

- ✓ 第2四半期にリファイナンスアレンジメントを伴う新規AM案件を開始。
- ✓ 前期より受託してきた不動産AM案件で、パフォーマンスフィーを計上。
- ✓ FGIが一部出資する成長企業の経営管理業務の開始により、FA売上が伸張。(経営管理業務の一部は第4四半期よりFGIに移管)

FAM単体売上構成、営業利益	金額(百万円)	業務内容
AM関連売上	122	不動産ファンドAM業務、キャッシュマネジメント業務
FA、アレンジ売上	121	投資先の経営管理業務、経営支援業務 ファイナンスアレンジ
エクゼキューション、その他	93	ドキュメンテーション支援、不動産媒介等
貸付代理業務	7	FGIの貸金業代理店業務
売上高合計	344	
営業利益	△9	

セグメント別営業概況

－アセットマネジメント・アドバイザー事業(2)－

事業推進会社－FGIキャピタル・パートナーズ(株) (FGICP)

FGICPはヘッジファンドとベンチャー投資運用に特化した投資運用会社です。ヘッジファンドであるグローバル・マクロ運用は、アジア太平洋地域の為替・金利に焦点を当てたことで従来のマクロファンドとは低相関であり、流動性と透明性を重視した運用を行っております。ベンチャー投資運用では、日本を含むアジアでのテクノロジー・ベンチャー企業に注目し、投資ならびに投資先の経営指導等を行っております。

FGICPの売上はフィー収入であることから、売上高総利益率は100%となっております。

事業レビュー

- ✓ 主力ファンドのグローバル・マクロの運用資産が新規受託により大幅に増加。
- ✓ ベンチャー投資運用では、更なる投資家招聘や運用先企業の経営指導を進めるとともに、運用先企業間のビジネスマッチングも行い、投資先企業相互の企業価値向上に努める。

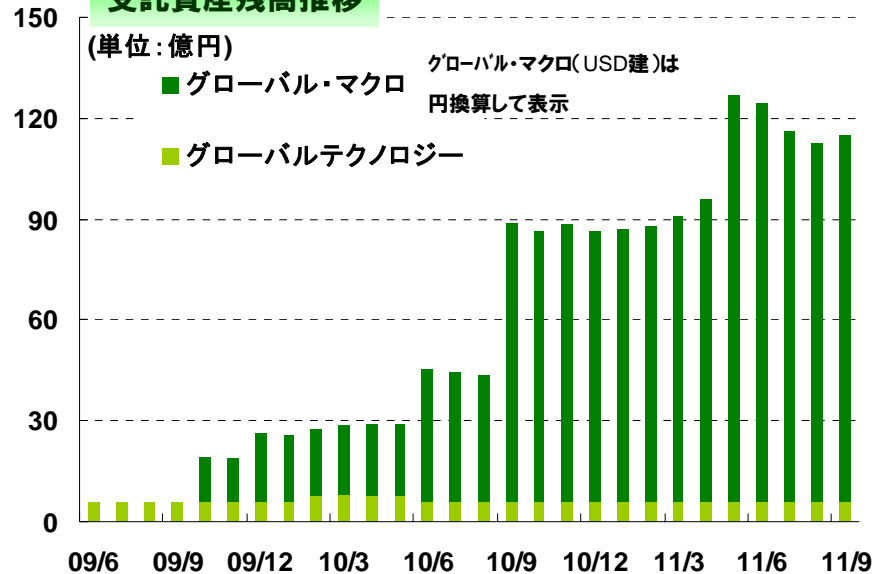
FGICP単体売上構成、営業利益

金額(百万円)
(5月～9月)

運用受託報酬	
グローバルマクロ運用	83
その他、ベンチャー投資運用等	22
投資助言報酬	
	4
売上高合計	
	110
営業利益	
	△29

2011年4月28日付で株式取得したことにより、
2011年5月よりFGICPの業績を連結業績に取り込んでおります。

受託資産残高推移



セグメント別営業概況 －プリンシパルファイナンス事業－

事業推進会社－フィンテックグローバル(株) (FGI) プリンシパルインベストメント(PI)事業部・国際事業部

PI事業部は、プリンシパルファイナンス(自己投融資)事業を行っております。グループ会社がFA業務やAM業務を行う中で見出される投資機会にリスクリターンを見極めて、ファイナンスを実行します。当期は、これまで中心であったアセットファイナンスや不動産セクターの事業会社へのファイナンスから、潜在性・将来性豊かな上場/未上場企業・事業に対するファイナンスに軸足を移しており、それらの企業の再生・発展を支援し企業価値を高めることで、将来収益の拡大を目指す投資戦略を強化、推進しております。

また、アジア(特に中国)企業の日本進出や日本企業との取引に関するファイナンスアレンジ案件や、またその逆の案件の引合いが増加しており、国際事業部及び中国現地法人がそのサポートを行い、それらのファイナンスアレンジ案件を具現化しつつあります。

事業レビュー

- ✓ 当期のPE事業強化方針により、積極的に企業・事業へのエクイティ投資(上場株式、未上場株式)を実行(前期末1,843百万円 ⇒ 当期末 2,449百万円 <全額引当済残高を除く>)
- ✓ 当期はエクイティ投資に係るエグジットはなく、不動産投資案件にかかる収益を計上

FGI単体売上、営業利益

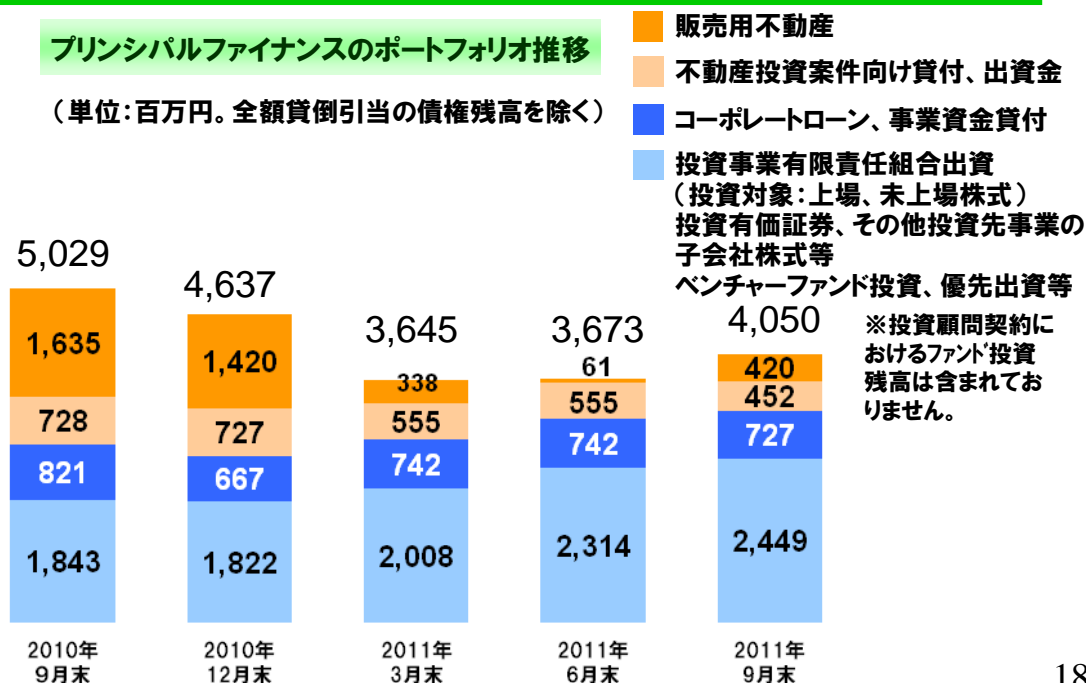
	金額(百万円)
売上高	4,474
営業利益	1,261

※第2四半期の担保不動産売却で、3,214百万円の売上を計上しております。

※売上高には連結子会社からの経営指導料売上382百万円が含まれております。

プリンシパルファイナンスのポートフォリオ推移

(単位:百万円。全額貸倒引当の債権残高を除く)



セグメント別営業概況 — 公共財関連事業 —

事業推進会社—(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング(PMC)

PMCは、公会計事業と公共ファイナンス事業を行っております。公会計事業では、地方自治体に対し公会計(基準モデル)導入のためのソフトウェアの提供、固定資産台帳及び財務諸表作成の支援コンサルティング業務を展開しております。新たな取り組みである公共ファイナンス事業では、地方自治体の資産更新問題等に対応する資金調達のアレンジや資産流動化等の提案をグループ会社とともに行っております。

事業レビュー

- ✓ PMC単体売上高は計画値93%とほぼ達成となるも、契約のずれ込みと営業人件費増で営業損失は42百万円
- ✓ 総務省の「今後の新地方公会計の推進に関する研究会」の動向を見守る地方自治体が多いことが、下半期減速の理由の1つ
- ✓ 2012年度予算獲得のための地方自治体営業に注力(営業人員増員)
- ✓ 公会計ソフト-PPP(ver3.0)納入先に次ステージ商品として「財政支援ツール 改革」(新商品)の販売強化。
- ✓ 「公共施設マネジメント白書」作成支援業務の第1号契約(グループ会社-公共ファイナンス研究所)。
- ✓ 公共ファイナンス事業として東北震災地のファイナンス支援及び地方都市の市街地活性化ファイナンスを推進中。

PMC単体売上、営業利益

金額(百万円)

コンサルティング	107
パッケージ	58
保守	29
その他 (公共ファイナンス含む)	13
売上高合計	208
営業利益	△42

PPP導入及び公会計コンサルの実績

(2011/9/30現在)

北海道地区	25(0)	東北地区	8(1)
関東地区	36(5)	東海・中部地区	32(5)
近畿地区	8(2)	中国・四国地区	7(2)
九州地区	20(0)		

合計:136

※()は都道府県、政令指定都市、県庁所在地都市、23特別区
※PPP導入予定先も含まれます。

セグメント別営業概況 —その他投資先事業—

当事業では、コア事業以外の純投資を目的とした事業会社による収益を計上しており、プリンシパルファイナンス事業の一部といえるセグメントでありませ

投資先事業

Crane Reinsurance Limited (再保険事業)
 (株)ベルス (福利厚生トータルサービス)
 FinTech Gimv Fund (FGF) (ベンチャーキャピタルファンド)

主な投資先事業の状況(単体業績)

Crane Reinsurance

	金額(百万円)
売上高	1,408
営業利益	124

引き続きHardy Underwriting Bermudaのロイズ・シンジケート382から傷害保険等のリスクを引き受けております。売上高(再保険引受収入)は新規契約増加等により前期比186.3%増の1,408百万円となったことで、既経過保険料の増加に伴う支払準備金の増加があったものの、営業利益は124百万円(前期は52百万円の損失)となりました。(2011年3月11日に発生した東日本大震災による業績への影響は本決算では限定的でありました。)

なお、CraneはHardy社より2012年1月以降の新規契約については継続しないとの通知を受けております。このため、国内元受団体との強力なリレーションのもと、2012年1月に開始する新たな再保険契約に向け、Craneへの出再する再保険会社を探索しておりますが、決算発表日(11月14日)時点において新たな契約には至っておりません。

(株)ベルス

	金額(百万円)
売上高	518
営業利益	58

東日本大震災の影響による建築資材調達困難による不動産の引き渡し遅延や消費マインドの低迷等、取り巻く環境は厳しい状況となりましたが、支援サービス提供先企業やアライナンスパートナーを積極的に開拓、拡大し営業基盤を強化すると共に、顧客のニーズに対応した広告及びキャンペーンを実施することにより、外部環境の影響を最小限に抑える事ができました。

部門別では、賃貸市場下落により不採算化したサブリース物件からの撤退及び得意先企業のリストラ及び異動の減少により、賃貸サービス部門の収入が計画を下回ったものの、持ち家サービス部門は、提携デベロッパーの契約引き渡し件数及び広告収入の大幅増により部門計画を達し、業績を牽引致しました。この結果、売上高は518百万円(前期比5.2%減)となったものの、経費削減策も奏功し、営業利益は58百万円(前期比52.3%増)となりました。

セグメント別営業概況 —その他投資先事業—

FinTech GIMV FUND (FGF)

(FGF 投資先紹介 P10~P11参照) 以下、FGFの投資対象・ミッション・戦略を記載

投資対象

投資により成長が著しく加速されうるアーリー・ミドルステージの国内の情報技術/生命科学関連企業、並びに当該技術領域において日本を主要市場とする、あるいは日本発の技術に基づいて設立された国外企業

ミッション

- 情報技術及び生命科学領域において、独創性が高く、競争力のある企業を創出・育成することにより日本の関連産業の発展に貢献する
- 当該領域における新たな経済的、戦略的投資機会を創生、あるいは発掘し、卓越した投資収益を実現する

戦略

- 日本では数少ない、独立性の高いファンド運営により、案件発掘から投資実行、投資後の企業経営、投資回収に至る投資事業の全プロセスを高いレベルで管理することにより、ファンド出資者への経済的、戦略的価値を最大化する
 - 2名のパートナーによる迅速な意思決定
 - 1社あたり2~3億円の投資額を~20社にコミット、取締役として投資先企業の企業価値の最大化を図る
 - パートナーのグローバルな投資経験とネットワークを最大限に生かし、投資先の企業価値の極大化を図る
 - 2名のパートナーの国際投資経験は計20年以上、内1名はソフィノバベンチャーズ(シリコンバレーのトップファンド、運用資産約1,000億円)にも籍を置く
 - 欧州の出資者(GIMV/ベルギー, BASF/ドイツ)
- GIMV (PE/VC)、BASF (マテリアル)を含む出資者との戦略的なシナジーを追求し、投資先の企業価値の極大化を図る

財務ハイライト

連結貸借対照表

	資産の部		
	10年9月期	11年9月期	増減
流動資産	5,261,820	6,656,212	1,394,391
現金及び預金	829,661	1,804,161	974,499
売掛金	67,083	125,682	58,599
営業投資有価証券	5,960,043	2,002,744	△ 3,957,298
販売用不動産	1,630,622	420,531	△ 1,210,090
繰延税金資産	1,083	1,049	△ 33
営業貸付金	5,317,419	2,707,235	△ 2,610,184
未収入金	192,798	1,563,973	1,371,175
その他	136,648	122,286	△ 14,361
貸倒引当金	△ 8,873,539	△ 2,091,453	6,782,086
固定資産	2,090,609	1,026,282	△ 1,064,326
有形固定資産	150,054	169,408	19,354
無形固定資産	442,561	502,844	60,282
投資その他の資産	1,497,993	354,029	△ 1,143,964
資産合計	7,352,430	7,682,494	330,064

1 直接償却したことなどにより、前期比で営業投資有価証券が3,957百万円減少（うち直接償却による減少4,549百万円）、営業貸付金が2,610百万円減少（うち直接償却による減少2,155百万円）、貸倒引当金が6,782百万円減少（うち直接償却による減少6,705百万円）。直接償却の影響を除いた増減額は、営業投資有価証券は592百万円の増加、営業貸付金は454百万円の減少、貸倒引当金は76百万円の減少。

2 子会社が保有していた当社社債を買い消したことにより投資有価証券が1,124百万円減少。この投資有価証券を担保に借り入れていた借入金を返済したことにより長期借入金が897百万円減少。

3 繰越欠損金を填補し利益配当を確保することなど資本政策上の理由から、資本金8,454百万円、資本剰余金10,351百万円を利益剰余金へ振り替えております

	負債の部		
	10年9月期	11年9月期	増減
流動負債	1,247,720	1,176,541	△ 71,178
短期借入金	66,000	55,000	△ 11,000
一年内返済予定長期借入金	125,000	81,837	△ 43,163
未払金	92,750	301,649	208,898
未払費用	152,530	54,312	△ 98,218
預り金	497,764	490,755	△ 7,008
その他	313,674	192,986	△ 120,688
固定負債	2,940,154	1,635,063	△ 1,305,091
新株予約権付社債	1,200,000	—	△ 1,200,000
長期借入金	1,026,449	45,157	△ 981,292
繰延税金負債	56,802	74,123	17,320
退職給付引当金	71,834	86,097	14,263
保険契約準備金	442,437	1,286,699	844,261
その他	142,629	142,985	355
負債合計	4,187,874	2,811,604	△ 1,376,270

純資産の部

	10年9月期	11年9月期	増減
株主資本	2,577,473	3,936,656	1,359,182
資本金	10,764,317	2,312,384	△ 8,451,933
資本剰余金	10,351,900	5,183	△ 10,346,716
利益剰余金	△ 18,538,744	1,671,501	20,210,245
自己株式	—	△ 52,412	△ 52,412
その他の包括利益累計額	△ 130,878	△ 179,872	△ 48,993
その他有価証券評価差額金	—	△ 629	△ 629
為替換算調整勘定	△ 130,878	△ 179,243	△ 48,364
新株予約権	21,811	18,091	△ 3,720
少数株主持分	696,149	1,096,015	399,866
純資産合計	3,164,555	4,870,890	1,706,334
負債純資産合計	7,352,430	7,682,494	330,064

連結損益計算書

		2010年9月期	2011年9月期	(単位: 千円) 増減
1	売上高	3,465,497	6,988,197	3,522,700
	売上原価	2,530,057	3,479,193	949,135
	売上総利益	935,439	3,509,003	2,573,564
2	販売費及び一般管理費	3,442,291	2,232,314	△ 1,209,977
	営業利益	△ 2,506,852	1,276,688	3,783,541
	営業外収益	65,807	13,940	△ 51,866
	営業外費用	163,174	69,728	△ 93,445
	経常利益	△ 2,604,219	1,220,900	3,825,120
	特別利益	619,920	589,628	△ 30,292
	特別損失	349,287	398,839	49,551
	税金等調整前当期純利益	△ 2,333,586	1,411,689	3,745,276
	法人税等	88,505	61,432	△ 27,073
	少数株主損益調整前当期純利益	—	1,350,257	—
	少数株主損失(△)	△ 249,258	△ 53,789	195,468
	当期純利益	△ 2,172,834	1,404,046	3,576,881

1 担保取得した不動産の売却により、売上3,214百万円、原価1,087百万円を計上
Crane Reinsurance Limited において前期比、売上916百万円、原価741百万円の増加

2 販売費及び一般管理費は、連結子会社の減少、貸倒引当金繰入額と貸倒損失の減少（2010年9月期 823百万円
→2011年9月期 100百万円）、業務効率化・人件費等の経費削減などにより、前期比で1,209百万円減少しております。

2012年9月期 基本施策及び業績予想

2012年9月期 通期業績予想（連結）

（単位：百万円）	2011年9月期 実績	2012年9月期 業績予想	前期比
売上高	6,988	3,560	△3,428
売上総利益	3,509	2,110	△1,399
営業利益	1,276	80	△1,196
経常利益	1,220	150	△1,070
当期純利益	1,404	280	△1,124

- 売上高、営業利益については、次頁のセグメント内訳参照
- 投資先企業について長期保有方針が明確となったものを新たに持分法適用会社とすることで、営業外収益に計上予定
- 当期純利益は、債権回収による特別利益の計上見込と少数株主持分損益を織込

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

連結損益計算書 セグメント内訳

セグメント内訳	科目	2011年 9月期 【実績】	2012年 9月期 【予想】	前期比
投資銀行事業	売上高	449	460	+11
	売上総利益	446	460	+14
	営業利益	91	100	+9
アセットマネジメント ・アドバイザー事業	売上高	455	632	+178
	売上総利益	404	632	+228
	営業利益	△52	138	+190
プリンシパルファイナンス 事業	売上高	4,006	893	△3,113
	売上総利益	2,065	467	△1,598
	営業利益	1,865	△100	△1,965
その他投資先事業	売上高	1,931	1,362	△569
	売上総利益	560	495	△65
	営業利益	32	△62	△94
公共財関連事業	売上高	208	323	+115
	売上総利益	79	164	+85
	営業利益	△43	3	+46
連結	売上高	6,988	3,558	△3,430
	売上総利益	3,509	2,106	△1,403
	営業利益	1,277	75	△1,202

単位:百万円

前期に引き続き、顧客数の拡大を図る。本事業はグループ全体の収益に寄与するため、人材を集中し営業推進。

FGICP子会社化により受託資産が増加。今期はさらに資産増加を目指し、収入基盤の安定化を図る。

前期は、大型案件のエグジットにより収益貢献。今期は前期に引き続き、企業投資先行、将来収益の種まき時期と捉える。

経営支援を通じ、拡大を企図。一方、再保険会社については、出再保険会社の契約解除により、今期は売上が減少する予定。

今期は、営業強化、業務の効率化および公共財ビジネスの早期に確立し、収益拡大を図る。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

期末配当の実施

■ 2011年9月期期末配当の概要

✓ 当社普通株式 1 株につき金100円 配当総額 120,904,300円
（支払開始日 2011年12月22日）

✓ 当期に当社単体で1,563百万円の当期純利益を計上
将来の事業展開などを総合的に勘案して、復配の目処がついたと判断

（注）2011年9月期 期末配当については、2011年12月21日開催予定の第17期定時株主総会の決議をもって正式に決定、実施する予定であります。

■ 2012年9月期の配当金について

✓ 今後も、業績動向及び事業拡大に係る資金需要等や、十分な内部留保金を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ利益を還元していく予定であり、2012年9月期の配当予想については2011年9月期に引き続き 1 株につき100円とさせていただきます。

参考資料

- 個別財務諸表（貸借対照表、損益計算書）
- 連結業績推移（6期分）
- 子会社単体業績の推移
- FGIグループの受託資産額の推移
- 2011年9月期 報告セグメント

個別貸借対照表

資産の部			
	10年9月期	11年9月期	増減
流動資産	4,759,820	3,066,538	△ 1,693,281
現金及び預金	344,469	425,683	81,214
売掛金	631	105	△ 526
営業投資有価証券	5,864,973	799,007	△ 5,065,965
販売用不動産 1	1,630,622	284,078	△ 1,346,543
営業貸付金	5,654,379	2,718,194	△ 2,936,184
短期貸付金	57,628	146,127	88,498
未収入金	4,205	758,545	754,339
その他	83,693	35,005	△ 48,688
貸倒引当金	△ 8,880,782	△ 2,100,208	6,780,573
固定資産	3,474,443	3,843,843	369,399
有形固定資産	140,590	157,079	16,488
無形固定資産	13,221	10,684	△ 2,537
投資その他の資産	3,320,631	3,676,079	355,448
資産合計	8,234,264	6,910,381	△ 1,323,882

1 事業をアセットファイナンスから企業投資へ変化させたことにより減少

2 グループ会社からの借入によるものであります。

3 前期に金融取引として計上した案件が終了したことにより686百万円減少

4 前期に投資先SPCから850百万円の配当を前受

負債の部			
	10年9月期	11年9月期	増減
流動負債	4,666,151	2,977,952	△ 1,688,198
短期借入金 2	1,149,175	1,287,026	137,851
一年以内返済予定 長期借入金	45,000	—	△ 45,000
未払金	1,096,165	1,155,402	59,236
預り金 3	1,176,626	483,602	△ 693,024
前受金 4	1,056,461	1,575	△ 1,054,886
その他	142,722	50,345	△ 92,376
固定負債	1,236,281	38,268	△ 1,198,013
新株予約権付社債	1,200,000	—	△ 1,200,000
その他	36,281	38,268	1,986
負債合計	5,902,433	3,016,221	△ 2,886,212

純資産の部

株主資本	2,310,019	3,876,068	1,566,049
資本金	10,764,317	2,312,384	△ 8,451,933
資本剰余金	10,351,900	14	△ 10,351,885
利益剰余金	△ 18,806,198	1,563,669	20,369,868
新株予約権	21,811	18,091	△ 3,720
純資産合計	2,331,831	3,894,160	1,562,329
負債純資産合計	8,234,264	6,910,381	△ 1,323,882

個別損益計算書

(単位: 千円)

	2010年9月期	2011年9月期	増減
売上高	1,033,845	1 4,474,381	3,440,536
売上原価	598,807	1,840,575	1,241,768
売上総利益	435,037	2,633,805	2,198,767
販売費及び一般管理費	2 2,063,563	1,372,350	△ 691,212
営業利益	△ 1,628,525	1,261,455	2,889,980
営業外収益	56,675	14,352	△ 42,323
営業外費用	34,019	30,875	△ 3,143
経常利益	△ 1,605,869	1,244,931	2,850,800
特別利益	609,577	496,433	△ 113,144
特別損失	3 1,598,084	176,484	△ 1,421,600
税引前当期純利益	△ 2,594,376	1,564,879	4,159,256
法人税等	3,800	1,210	△ 2,590
当期純利益	△ 2,598,176	1,563,669	4,161,846

1 売上高：営業主体の多くを子会社に移行したため当社の売上は、主に既契約案件売上、プリンシパルファイナンス売上及び子会社からの経営指導料売上となっております。

2 貸倒引当金繰入額と貸倒損失の減少（2010年9月期 782百万円→2011年9月期 92百万円）

3 関係会社株式評価損の減少（2010年9月期 1,331百万円→2011年9月期 69百万円）

連結業績の推移

決算年月		2006年 9月期	2007年 9月期	2008年 9月期	2009年 9月期	2010年 9月期	2011年 9月期
売上高	(百万円)	8,231	16,914	14,165	10,385	3,465	6,988
売上総利益	(百万円)	7,608	11,432	8,314	△ 7,326	935	3,509
経常利益又は経常損失 (△)	(百万円)	5,581	5,951	△ 9,114	△ 21,197	△ 2,604	1,220
当期純利益又は当期純損失 (△)	(百万円)	3,235	1,767	△ 7,160	△ 12,091	△ 2,172	1,404
純資産額	(百万円)	24,957	27,191	17,426	5,447	3,164	4,870
総資産額	(百万円)	61,229	90,740	79,021	15,766	7,352	7,682
1株当たり純資産額	(円)	105,180.27	20,797.85	13,911.77	3,851.31	2,024.72	3,152.33
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額 (△)	(円)	14,354.40	1,484.29	△ 5,937.48	△ 10,008.43	△ 1,798.88	1,168.69
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	12,458.52	1,395.39	—	—	—	1,168.05
自己資本比率	(%)	40.65	27.56	21.27	29.52	33.30	48.90
自己資本利益率	(%)	22.86	7.09	△ 34.25	△ 112.68	△ 61.21	45.30
株価収益率	(倍)	35.18	23.78	—	—	—	2.57
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 24,266	△ 10,000	13,155	8,333	626	1,953
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 2,916	△ 7,150	△ 12,099	7,687	△ 2,281	△ 631
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	44,247	15,018	△ 6,743	△ 19,674	△ 3,376	△ 413
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	18,718	15,163	9,500	5,811	829	1,711
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	55(6)	129(11)	112(7)	117(16)	72(13)	70(16)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	42(6)	78(8)	83(5)	50(5)	40(2)	15(2)

※当社は2006年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。

子会社単体業績の推移

単位：百万円

フィンテック グローバル証券	2010年9月期			2011年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	8	1	10	309	138	448
売上総利益	8	1	10	306	138	445
経常利益	△33	△42	△76	150	△56	86

フィンテック アセット マネジメント	2010年9月期			2011年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	33	49	83	178	166	344
売上総利益	33	49	83	178	119	297
経常利益	△0	24	24	19	△27	△8

FGIキャピタル・ パートナーズ	2011年9月期 (2011年5月～9月) (注)
売上高	110
売上総利益	110
経常利益	△32

(注) 2011年5月より連結業績に取り込んでおります。

パブリック・ マネジメント・ コンサルティング	2010年9月期			2011年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	121	50	172	122	85	208
売上総利益	19	△55	△36	57	21	79
経常利益	△41	△165	△206	1	△46	△44

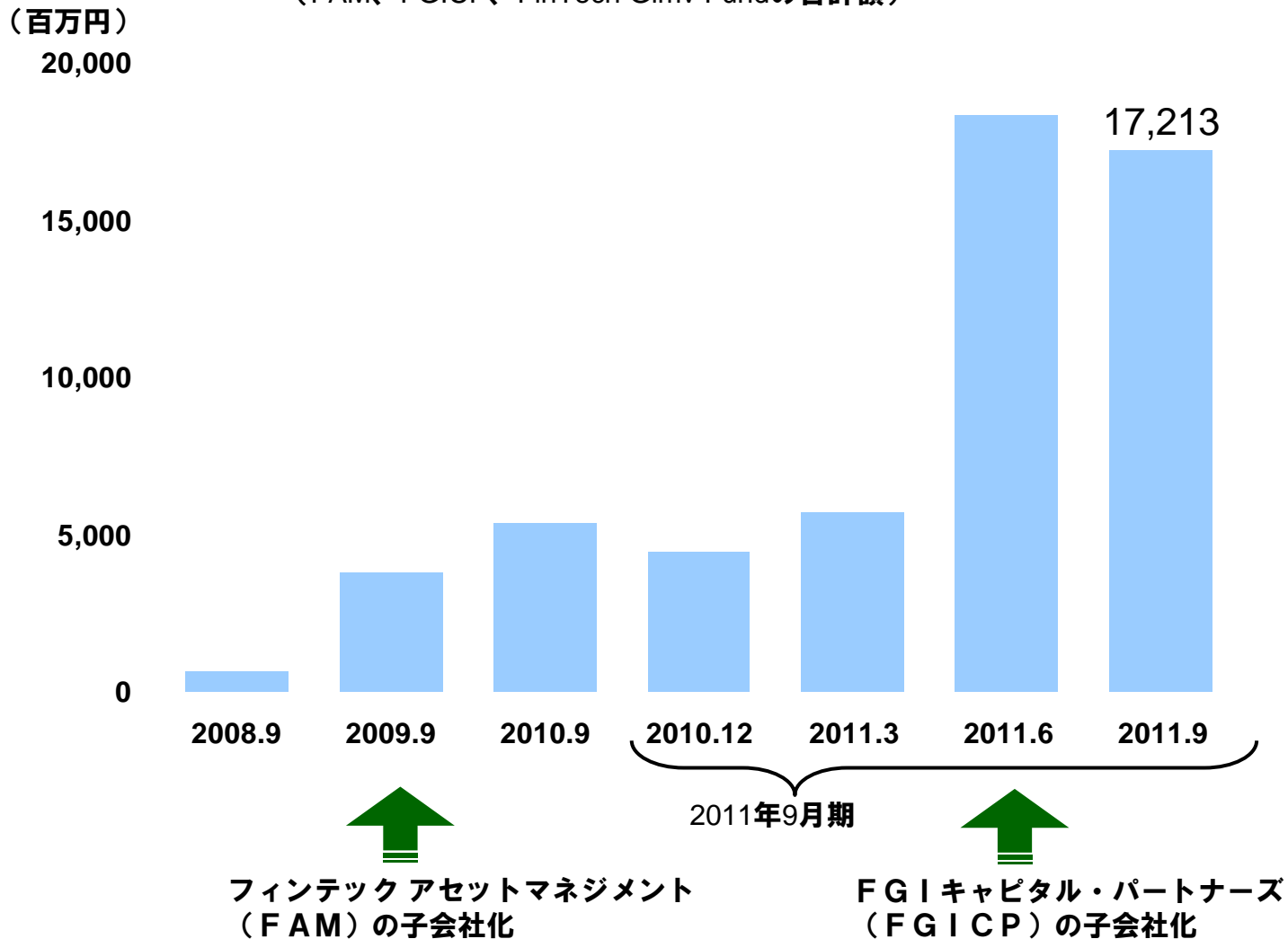
ベルス	2010年9月期			2011年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	254	292	546	244	274	518
売上総利益	196	235	433	190	232	423
経常利益	0	30	31	2	51	53

Crane Reinsurance	2010年9月期			2011年9月期		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	444	47	492	618	789	1,408
売上総利益	△36	14	△21	134	18	153
経常利益	△39	△33	△72	125	△33	112

FGIグループの資産受託額の推移

投資運用業務の進展とともに年々増加

(FAM、FGICP、FinTech Gimv Fundの合計額)



2011年9月期 報告セグメント

2011年9月期の報告セグメントは以下の通りであります。

■ 2011年9月期の報告セグメント

報告セグメント	事業内容	主な事業推進会社 (連結子会社のみ)
投資銀行事業	ファイナンスアレンジメント・ アドバイザー エクゼキュション業務受託 証券業務	フィンテックグローバル証券
アセットマネジメント・ アドバイザー事業	アセットマネジメント業務 フィナンシャル・アドバイザー業務 経営コンサルティング業務 再生支援業務	フィンテックアセットマネジメント FGIキャピタルパートナーズ
プリンシパル ファイナンス事業	自己資金投融資	フィンテックグローバル PI事業部 国際事業部
その他投資先事業	投資先事業	ベルス(福利厚生トータルサービス) Crane Reinsurance(再保険事業) FINTECH GIMV FUND (ベンチャーファンド)
公共財関連事業	公会計導入コンサルティング	パブリック・マネジメント・ コンサルティング

調整額	持株会社運営費用(全社費用) グループ会社間取引相殺
-----	-------------------------------

(参考) 2010年9月期の事業の種類別セグメント

事業の種類別 セグメント	サブセグメント	主な事業推進会社 (連結子会社のみ)
投資銀行事業	アレンジャー業務 プリンシパル ファイナンス業務 その他投資銀行業 務	フィンテックグローバル フィンテックグローバル証券 FINTECH GIMV FUND
再保険 保証事業	—	Crane Reinsurance Stellar Capital (2010年8月解散決議) イントラスト (2010年2月まで連結) フィンテックグローバル
不動産 関連事業	—	フィンテックグローバル フィンテックアセットマネジメン ト ベルス 新栄不動産開発 (2010年9月まで連結)
その他事業	—	パブリック・マネジメント・ コンサルティング

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2011年9月期業績に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実(以下、「将来情報」ということがあります)の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付(または当該資料・文書に別途明示された日付)時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述ないし事実または前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

